

平成27年度 第1回

下水道若手職員によるネットワーク(下水道場)
報告書

国土交通省水管理・国土保全局 下水道部

平成27年度第1回下水道若手職員によるネットワーク（下水道場）

テーマ「アセットマネジメント計画の考え方」

開催日時：平成27年7月28日（火）13時～17時

開催場所：東京ビッグサイト 会議棟701・702会議室（下水道展'15東京会場）

参加者数：自治体80名（都道府県20名、政令市30名、一般市28名、公社2名）
土木研究所1名、国土技術政策総合研究所2名、国土交通省1名

プログラム

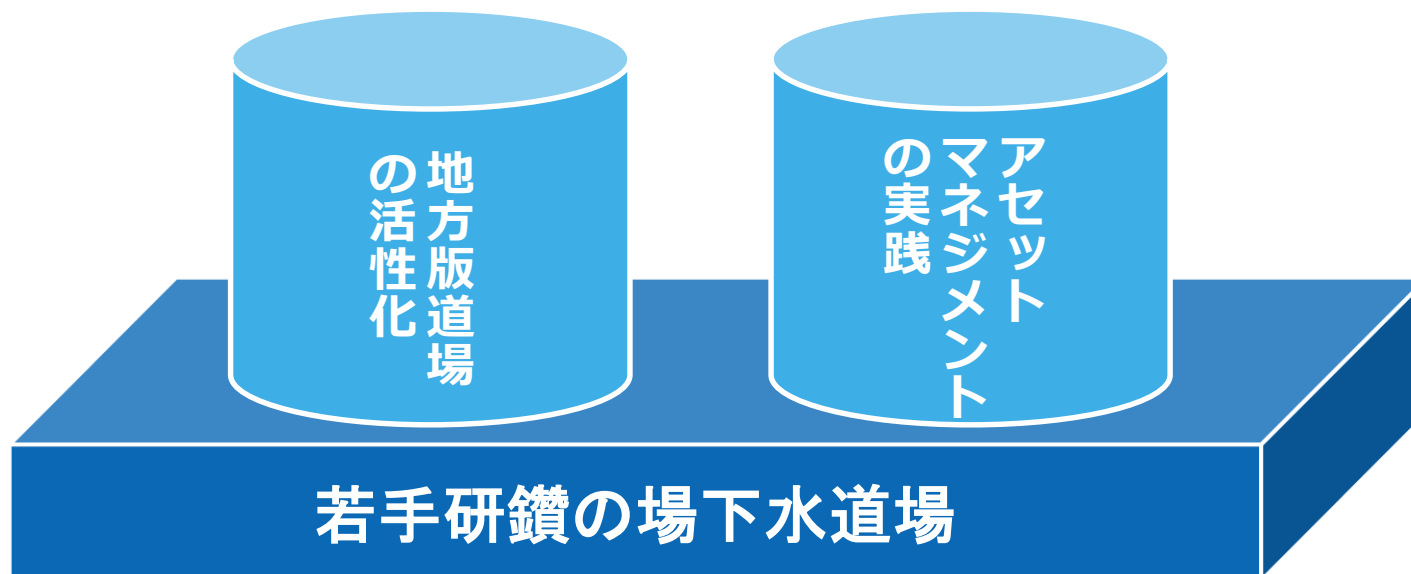
1. 開催挨拶
国土交通省下水道部下水道企画課課長補佐 茨木 誠
2. 下水道場について（主旨・概要説明）
〃 茨木 誠
3. 地方版下水道場の活性化
「北の下水道場」の取り組みについて
北海道建設部まちづくり局都市環境課 鷲見 覚氏
4. グループディスカッション
 - (1)下水道の実態を踏まえたアセットマネジメント計画について
国土交通省下水道部下水道事業課環境調整係長 前川裕介
 - (2) 班別討議
 - (3) 発表
 - (4) 講評



平成27年度の主テーマ

第1回下水道場における「神田宣言」(H24.9.10)を受けて、これまでに延べ8回の下水道場を開催。「他都市・団体との交流」、「他分野からの刺激」、「先駆者からの学び」、「体験」などを柱に、若手職員の研鑽の場として活動の幅を拡大してきた。

平成27年度は「**地方版道場の活性化**」と「**アセットマネジメントの実践**」を主なテーマとして活動する。



Ask not what your country can do for you – ask what you can do for your country John F. Kennedy (Jan. 20, 1961)

(訳) 祖国があなたに何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが祖国のために何をできるか問うのです。

北の下水道場の取り組みについて 講師：鷺見 覚氏

平成26年2月、道内の下水道職員が知識と技能の研鑽を積み、ネットワークづくりを進めるため、北海道版下水道場「北の下水道場」を設立。年に2回程度開催している。

【運営母体】北海道建設部まちづくり局都市環境課（主催）、北海道地方下水道協会（後援）

【対象者】道内自治体の下水道担当者、年齢・職種制限なし

【活動内容】国や道からの情報提供、交流・意見交換、グループ演習・ディスカッション等

【開催実績】第1回「北海道版下水道場の設立」（H26.2.25）

第2回「今後の人口減少社会に対応する持続可能な下水道の未来について」（H26.9.18）

第3回「下水道BCP策定」（H27.2.25）



今後の活動について

浸水対策に係る市町村下水道職員向け勉強会等を推進するため、平成27年度から、「雨道場」の要素を取り込んでいく予定。

参加者との意見交換

北の下水道場の運営ノウハウについて質問があった。

講師の鷺見氏は、テーマ設定や講師選定の方法などをアドバイスした。



鷺見氏

テーマ「下水道の実態を踏まえたアセットマネジメント計画について」

下水道の実態と下水道法改正を踏まえ、以下の3点をポイントに、
「人、モノ、カネ」の一体的な管理計画を議論

＜議論のポイント＞

- ・ 今後10年間の重要施策やサービス水準の目標設定
- ・ 目標の達成に向けた課題
- ・ 上記課題の解決に向けた取り組み



9班に分かれて議論



真剣に資料に目を通す



総勢80名を超える参加者

1班

目標

課題

取組方針

当たり前の生活

ヒト	判断する人材
モノ	現状把握
カネ	資産計画
ヒト	縦横のネットワーク
モノ	情報共有化
カネ	維持工事に合せた調査点検



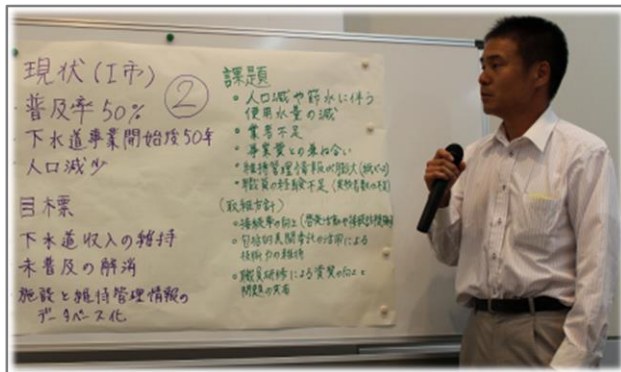
2班

現状（I市）

- ・普及率50%
- ・下水道事業開始後50年
- ・人口減少

目標

- ・下水道収入の維持
- ・未普及の解消
- ・施設と維持管理情報のDB化



課題

- ・人口減や節水に伴う使用水量の減
- ・業者不足
- ・事業費との兼ね合い
- ・維持管理情報が膨大（紙ベース）
- ・職員の経験不足（実務者数の不足）

〈取組方針〉

- ・接続率の向上（啓発活動や接続訪問強化）
- ・包括的民間委託の活用による技術力の維持
- ・職員研修による資質の向上と問題の共有

3班



〈目標〉 処理の広域活用を視野に入れた上で改築更新計画に付加価値を持たせる

〈課題〉

ヒト

- ・ 団塊世代職員の大量退職
- ・ 職員の異動サイクルが早い
- ・ 後輩が入らず技術が伝わらない
- ・ 有能な人ほどすぐ抜ける

モノ

- ・ 老朽箇所や老朽度合が把握しきれていない
- ・ すでに壊れて、使用せずにそのまま
- ・ 施設の耐震化が進んでいない

カネ

- ・ 人口減少による収入減 (3条)
- ・ 予算確保が困難 (4条)

〈取組み〉

- ・ 海外への職員出向
⇒勉強する機会
⇒採用のPRになる
- ・ 下水道教室 市民向けPR
⇒10年後の職員になるよう
- ・ 再任用職員を採用
⇒豊富な知識と技術の取り入れ

- ・ 使用していない施設を統廃合し再利用を図る (雨水貯留など)
- ・ 施設の情報をデータベース化し、長寿命化や耐震化に活用する

- ・ 料金の改定
- ・ 広域化による他自治体からの収入
- ・ 官民連携による維持管理費の抑制

4班

<今後10年間の目標設定> 施設健全度の維持

ヒト

職員減

- ・ 職員の育成
- ・ 代行業務
- ・ 公社・事業団等との連携
- ・ 人材交流

モノ

老朽化

- ・ 事業量の平準化
- ・ 適切な優先順位の設定

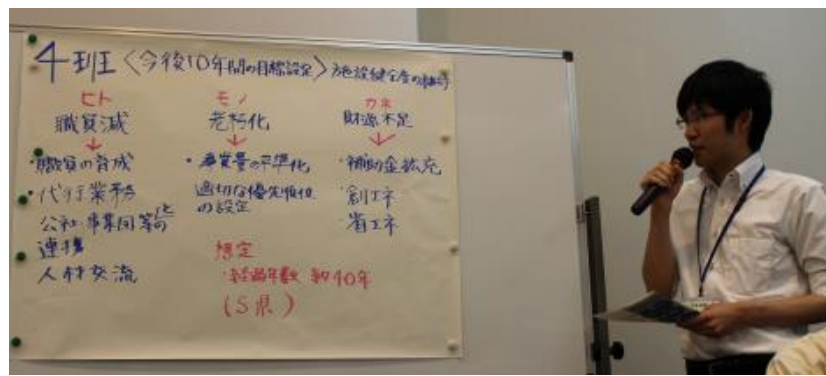
カネ

財源不足

- ・ 補助金拡充
- ・ 創工ネ
- ・ 省工ネ

想定

経過年数 約40年
(S県)



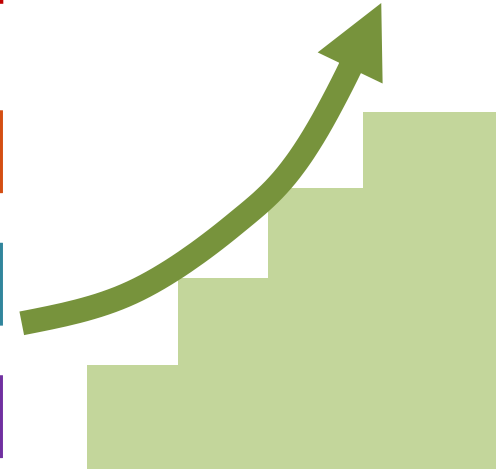
5班

今後10年間の目標設定

ヒトの意識改革

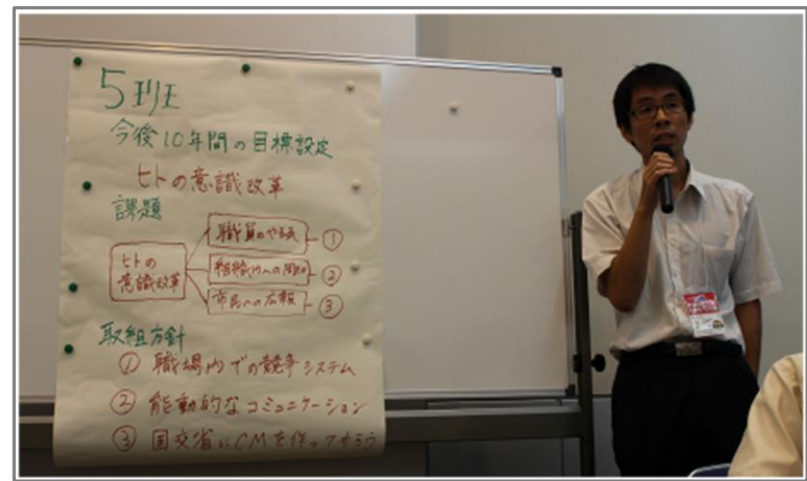
課題

ヒトの意識改革



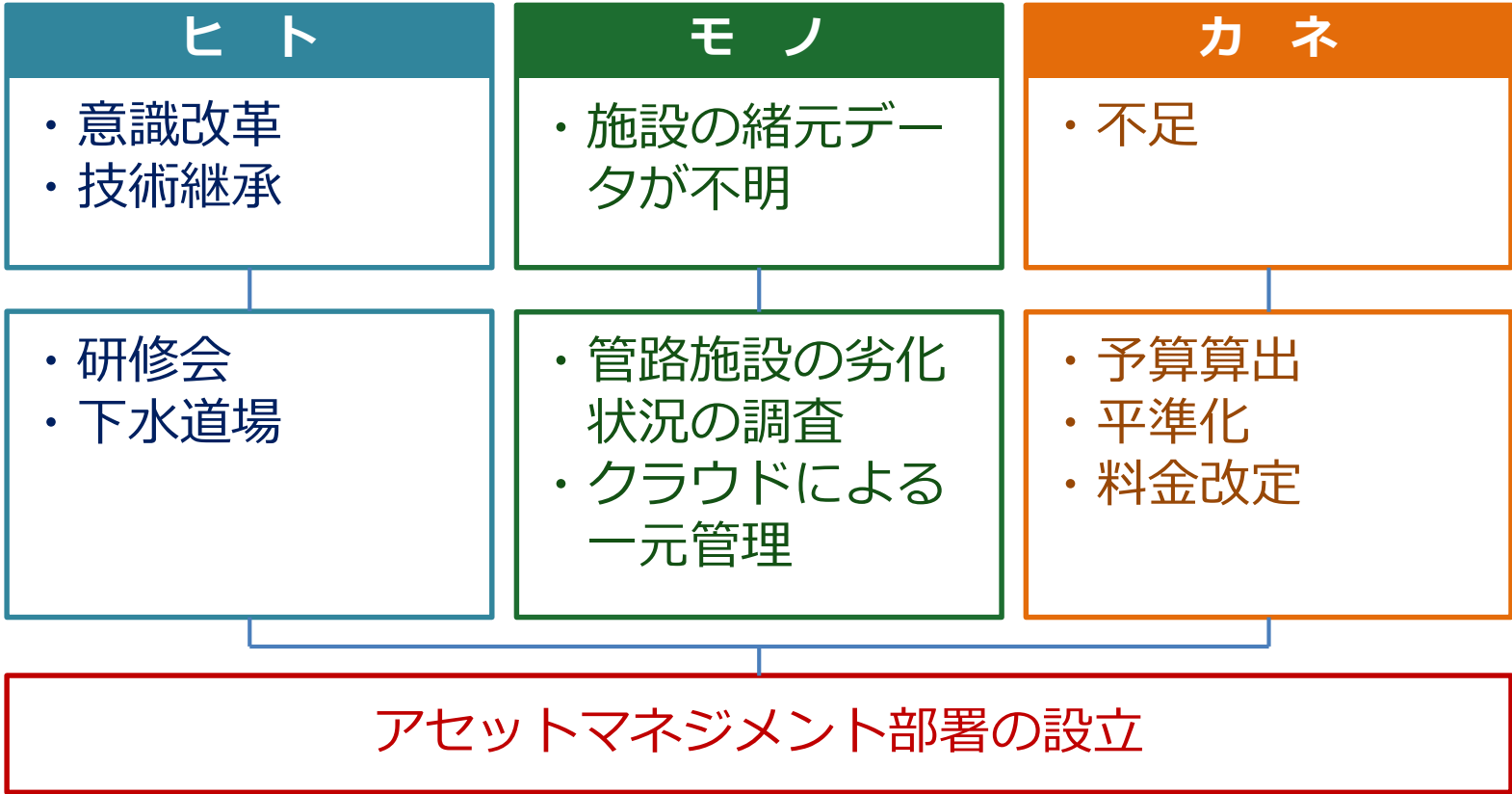
取組方針

- ① 職場内での競争システム
- ② 能動的なコミュニケーション
- ③ 国交省にCMを作ってもらおう



6班

今後10年間で持続可能な
下水道事業の構築を目指す



7班

「10年後もあたりまえの生活」



モデル都市

現 状

- ・ 120万人 (人口)
- ・ 150人 (職員)
- ・ 70km (50年経過)

10年後

- ・ 110万人
- ・ 120人
- ・ 300km

課題・取組

課 題

- 〈ヒト〉 技術・知識の継承
- 〈モノ〉 現状の把握
- 〈カネ〉 財源不足

取 組

- OBと研修・マイスター制度
- 点検・調査 (マニュアル)
- 使用料アップ (住民理解)

8班

最優秀

今後10年間の目標設定

市民の清潔で快適な暮らしを守る。
今のサービスレベルを維持する。

課題

- ・ 人員不足（ヒト）
- ・ 技術不足（ヒト）
- ・ 人口減少による収入減（金）
- ・ 不明水の増加（金）
- ・ 課題が一気に生じた場合、対応不可
- ・ 施設の老朽化（モノ）

取組方針

- ・ データベースのプラットフォーム化
- ・ 更新の平準化
- ・ 収入の増加
 - 下水熱の活用
 - デザインマンホール（広告）
- ・ 上水道との経営統合
- ・ 管路施設等の延命化
- ・ 調査物の効率化
- ・ 情報の共有化（近隣市町村の交流）



【最優秀賞】 評価ポイント

ヒト・モノ・カネを網羅した斬新なアイデアが評価された

9班

<サービスの継続>

ヒト

モノ

カネ

目標

下水道全般を理解した技術者の育成

安定した下水道機能維持

やりくり上手な企業
会計運営

課題

年齢構成
 { 高齢化
 中堅不足
 若手の増加
 短期間での異動

施設の老朽化
 健全度の把握困難
 求められる機能の多様化・高度化

徴収漏れ
 未水洗化
 低い下水道使用料

取組み

ベテランの経験則を文書化
 専門家を育てる仕組みづくり
 組織毎の情報共有化
 派遣制度

スクリーニング技術の適用
 優先順位の決定

徹底した調査
 地道な広報活動
 国等の補助金の活用

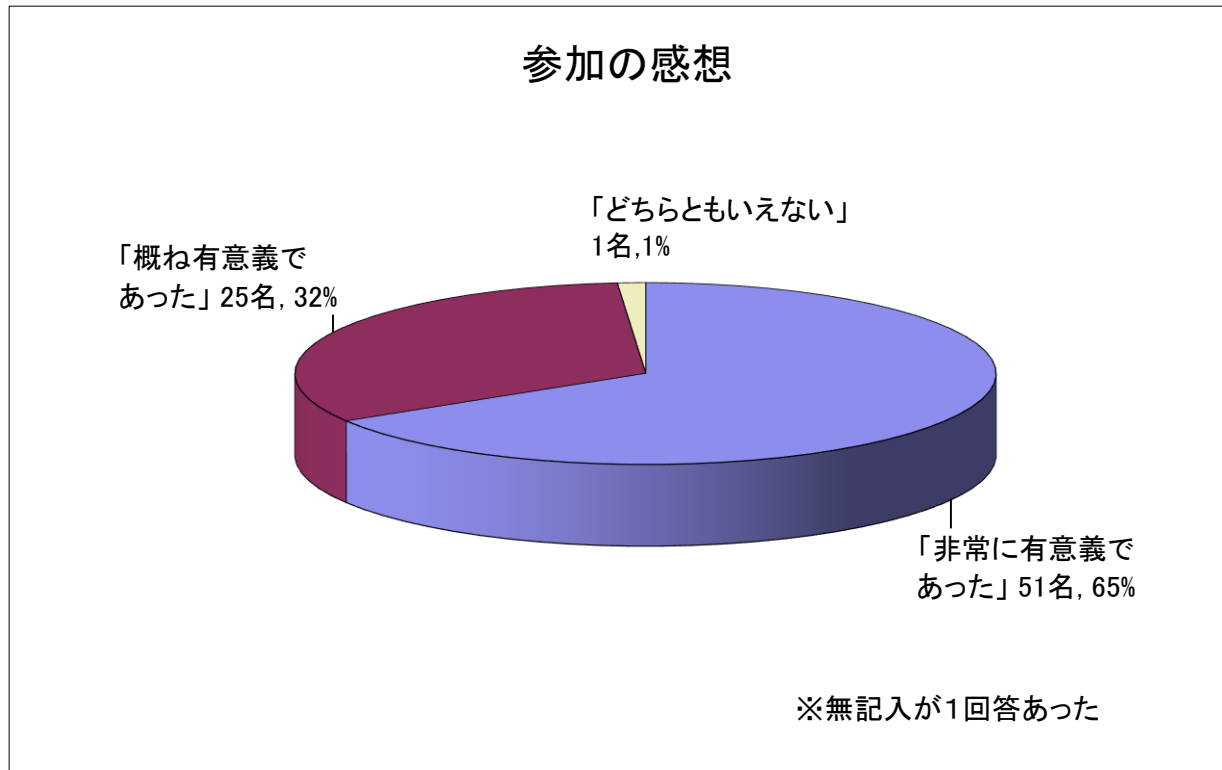


アンケート集計結果

下水道場開催後、参加者に対してアンケートを実施した。有効回答数は78であった。

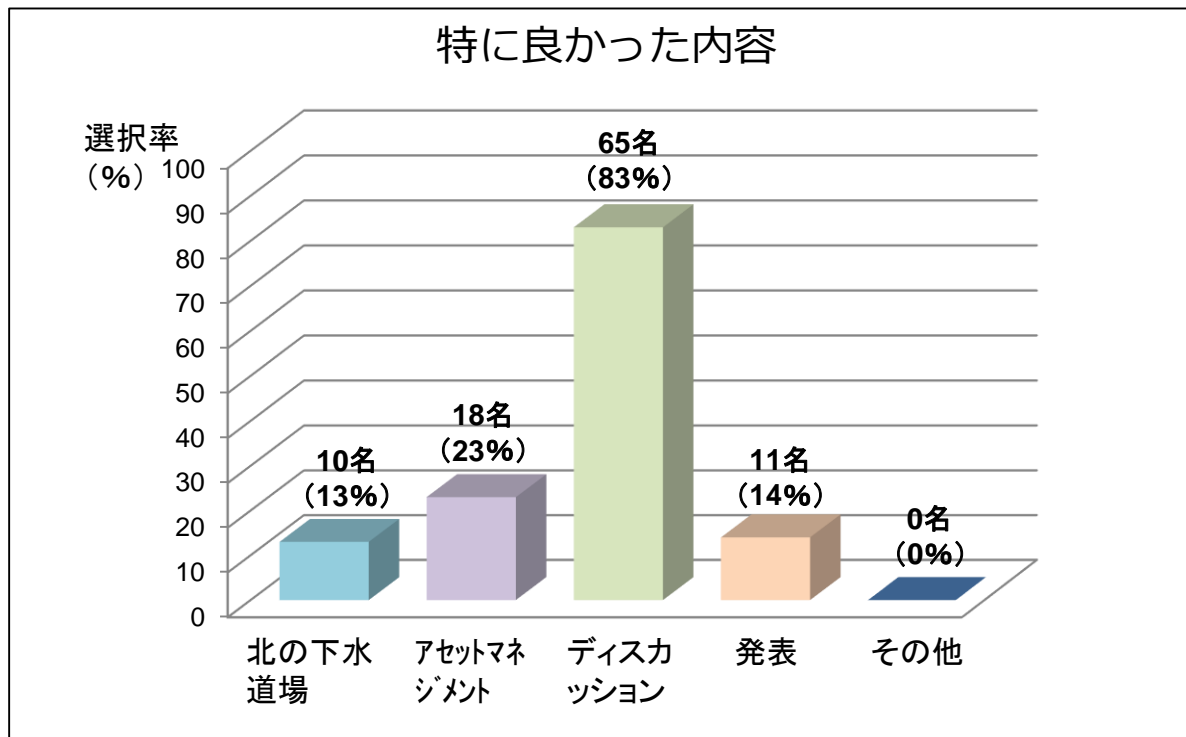
Q1 参加の感想

下水道場に参加した感想を尋ねたところ、「非常に有意義であった」が51名（65%）、「概ね有意義であった」が25名（32%）であった。「どちらともいえない」は1名、「有意義でなかった」と答えた参加者は皆無であった。



Q2 特に良かった内容

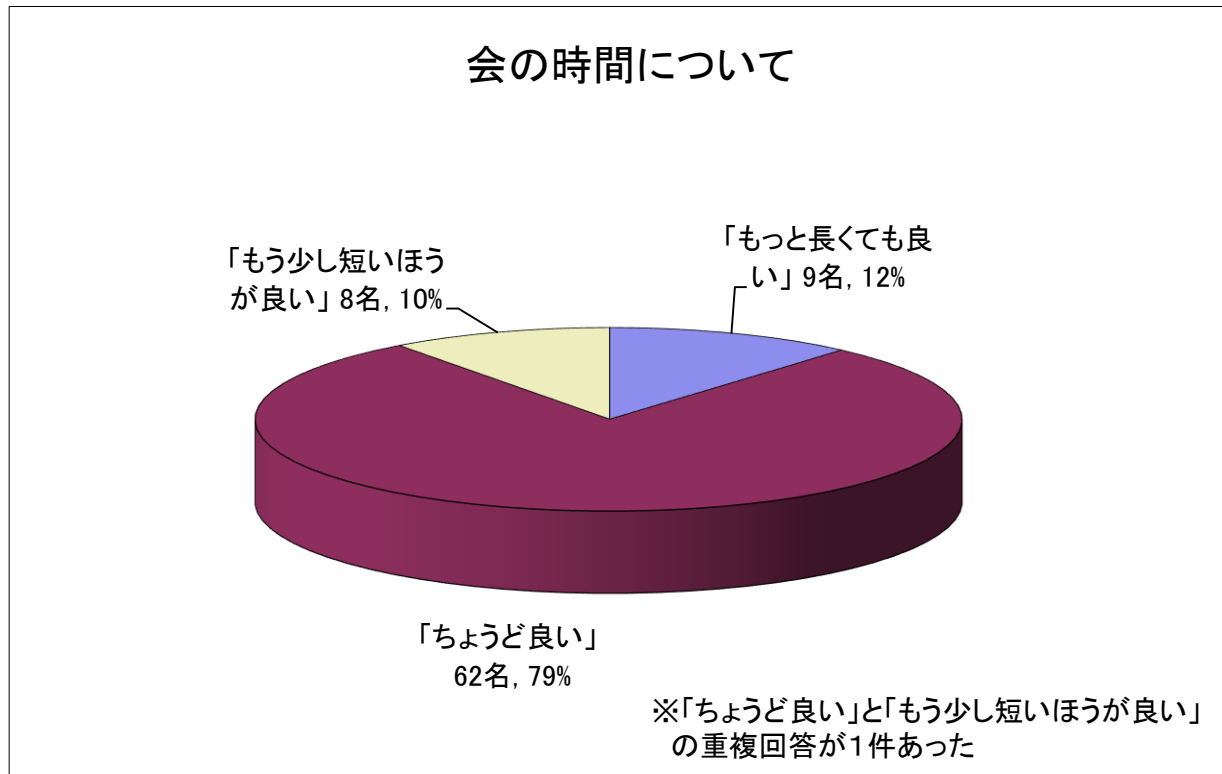
特に良かった内容を尋ねた（複数回答可）ところ、「グループディスカッション」が最も多くの支持を集めて65名（83%）であった。ほかには「下水道の実態を踏まえたアセットマネジメント計画について」が18名（23%）、「発表」が11名（14%）、「地方版道場『北の下水道場』」が10名（13%）であった。



※複数回答可

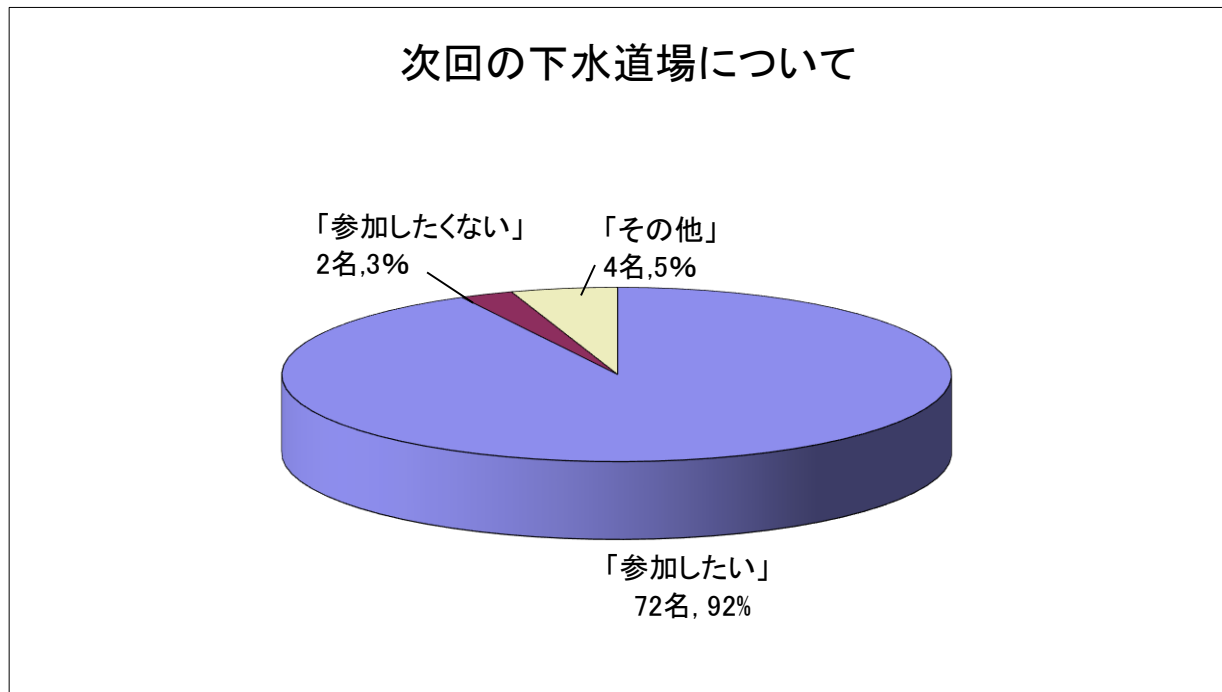
Q3 会の時間について

会の時間について尋ねたところ、総回答数の79%に当たる62名が「ちょうど良い」と回答。「もっと長くて良い」は9名（12%）、「もう少し短いほうが良い」は8名（10%）だった。



Q4 次回の下水道場について

次回の下水道場の参加意思について、**92%に当たる72名が「参加したい」と回答**。「参加したくない」の回答が2名（3%）あったが、うち1名は「下水道展の日は厳しい」というもの。「その他」の回答は4名（5%）で、同じく「下水道展と別にしてほしい」という意見や、「所属職員の持ち回りなので機会があれば」、「仕事の調整ができれば参加したい」という声があった。



Q5 代表的な意見・要望・感想

〈アセットマネジメント計画について〉

- 次回以降のアセットマネジメント計画策定の道場会議にぜひ参加させていただき、自分の都市に反映できるように勉強していきたい。

〈グループディスカッションについて〉

- ベテラン職員にはあっさり否定・論破されてしまうような議論であっても、班員と共に真剣に悩み、試行錯誤しながらお互いの知識向上を図ることができた。
- 若手らしい、既存の認識にとらわれない意見が求められる。
- 他都市の現状を聞き、自治体毎に抱えている問題が異なることが知れて良かった。
- 都市ごとに抱える問題、下水の普及状況の違いがある中で、意見を1つにまとめるのは困難だったが、逆に多様な意見が出て面白かった。
- 自分一人では思いつかない意見がたくさん出てきて良かった。
- 他自治体や団体の方との交流ができて良かった。

〈開催場所について〉

- 日本全国、様々な場所で開催してほしい。

〈その他〉

- 下水道ナショナルデータベース（G-NDB）等、本省下水道部の全国DBの予定や内容について、情報提供をいただきたい。
- 今後とも是非パワーアップして継続いただけたらと思う。

次回開催に向けて

「神田宣言」から3年。下水道場は「研鑽と成果」を柱に、実習や現場体験を採り入れるとともに、事例の蓄積や共有化を図りながら質の向上に努めてきた。27年度は地方版道場の活性化を目標とし、「アセットマネジメントの実践」について全国の若手と議論していく。



1班

氏名	所属団体	部署 / 役職
鷲見 覚	北海道	建設部まちづくり局都市環境課
阿部 芳貴	山形県鶴岡市	上下水道部下水道課
長尾 真	千葉県柏市	土木部下水道整備課
林 祐輔	東京都都市づくり公社	下水道部下水道事務所東多摩支所
布施 聡	相模原市	都市建設局土木部下水道施設課
畔柳 裕充	(公社)愛知水と緑の公社	下水道部豊川事業所
三浦 徹也	京都市	上下水道局下水道部計画課
佐々木 優太	香川県	土木部下水道課
藤本 匡哉	熊本市	上下水道局下水道整備課

2班

氏名	所属団体	部署 / 役職
粒針 健史	札幌市	下水道河川部下水道計画課
渡邊 晴彦	福島県いわき市	生活環境部生活排水対策室下水道事業課
川上 郁貴	千葉市	下水道計画課
中島 健	神奈川県横須賀市	上下水道局技術部下水道管渠課
勝野 貴介	石川県金沢市	企業局建設部建設課
久保野 幹	静岡県	交通基盤部都市局生活排水課
石川 剛士	大阪府	都市整備部下水道室事業課
田口 三十士	奈良県斑鳩町	上下水道部下水道課
澤田 陽介	徳島県	県土整備部水・環境課
宮城 桐吾	沖縄県	土木建築部下水道課

3班

氏名	所属団体	部署 / 役職
本間 一誠	北海道苫小牧市	上下水道部下水道計画課
福田 友一	栃木県	県土整備部都市整備課
前田 佳紀	千葉市	下水道施設建設課
矢部 元	神奈川県藤沢市	土木部下水道施設課
本間 翔一朗	新潟市	下水道管理センター維持管理課
石黒 典隆	浜松市	上下水道部下水道工事課
村上 愛美	大阪市	建設局下水道河川部水環境課
野上 貴弘	和歌山県	県土整備部河川・下水道局下水道課
黒田 達也	北九州市	上下水道局下水道部下水道整備課
古川 快	沖縄県	土木建築部下水道課

4班

氏名	所属団体	部署 / 役職
武井 長閑	埼玉県	下水道局下水道管理課
山崎 美里	東京都	下水道局建設部工務課
栢沼 宏二郎	神奈川県藤沢市	土木部下水道施設課
戸田 博康	富山市	上下水道局下水道課
水野 真児	静岡市	下水道部下水道施設課
西野 正也	堺市	下水道部下水道施設課
齋藤 昌彦	岡山県倉敷市	下水道部下水施設課
大上 勉	北九州市	上下水道局下水道部下水道計画課
中村 裕美	国土技術政策総合研究所	下水道研究部下水道研究室

5班

氏名	所属団体	部署 / 役職
浦前 良平	埼玉県飯能市	建設部下水道課
國廣 勇三	東京都	下水道局建設部設計調整課
奥野 圭一	神奈川県茅ヶ崎市	下水道河川部下水道河川建設課
原田 剛	愛知県	建設部下水道課
諸岡 博史	三重県	県土整備部下水道課
森 数樹	大阪府池田市	上下水道部水質管理課
二川 卓矢	広島市	下水道局施設部計画調整課
梅野 晃一	福岡市	道路下水道局計画部下水道計画課
板倉 舞	国土技術政策総合研究所	下水道研究部下水処理研究室

6班

氏名	所属団体	部署 / 役職
高尾 晋	宮城県	土木部下水道課
大和谷 敦史	さいたま市	建設局下水道部下水道計画課
城石 健治	東京都八王子市	水循環部下水道課
河本 武	横浜市	環境創造局下水道施設整備課
浅井 宏紀	愛知県	建設部下水道課
鈴木 将之	三重県四日市市	上下水道局管理部経営企画課
荒谷 仁志	大阪府池田市	上下水道部下水道工務課
前田 裕也	広島市	下水道局施設部管路課
葉山 大輝	長崎市	上下水道局事業部下水道施設課
金子 陽輔	土木研究所	水環境研究グループ水質チーム

7班

氏名	所属団体	部署 / 役職
青田 由希雄	仙台市	下水道事業部下水道調整課
塚本 洋介	さいたま市	建設局下水道部下水道計画課
加藤 直哉	東京都八王子市	水循環部下水道課
海津 東吾	川崎市	上下水道局下水道計画課
森永 貴世	名古屋市	上下水道局計画部下水道計画課
桑名 達也	福井市	下水道部下水管理課
森川 侑輝	兵庫県	県土整備部土木局下水道課
巻幡 剛始	広島市	下水道局施設部計画調整課
杉野 直哉	宮崎県	都市計画課
南晴 章伍	国土交通省	下水道部下水道企画課

8班

氏名	所属団体	部署 / 役職
阿部 昂久	仙台市	下水道事業部南蒲生浄化センター
三原 義也	千葉県船橋市	下水道部下水道河川管理課
櫻井 雅之	東京都国立市	道路下水道課
伊勢 智幸	川崎市	上下水道局下水道計画課
宗本 政紀	愛知県豊田市	上下水道局下水道建設課
齋藤 正明	京都府	文化環境部水環境対策課
有吉 隆宏	神戸市	建設局下水道部保全課
半田 裕貴	広島県福山市	上下水道局工務部下水道施設課
岩坪 和宏	熊本県	土木部道路都市局下水環境課

9班

氏名	所属団体	部署 / 役職
佐藤 修生	秋田市	上下水道局下水道整備課
北山 小百合	千葉県東金市	建設経済部下水対策課
清水 崇史	東京都多摩市	都市整備部下水道課
高橋 惇	相模原市	都市建設局土木部下水道施設課
大橋 良	愛知県岡崎市	上下水道局下水工事課
中西 英弘	京都市	上下水道局下水道部設計課
梶 智恵	神戸市	建設局中央水環境センター
伊佐坂 聡寿	熊本市	上下水道局計画調整課